

第1回加賀ふるさと検定(解説編)

※正解率は高校生以下の受験生を除く一般受験者156人を対象としたものです。

問1 加賀市で最も古い宮地向山遺跡は、旧石器時代の遺跡で、今からおよそ()年以上前のものと考えられている。
①4,000 ②5,000 ③8,000 ④13,000

正解は④です。 正解率 60.9%

私たちのふるさと加賀市で最も古い人類の痕跡は、現在のところ、宮地町にある琵琶ヶ池の近くで見つかった宮地向山遺跡とされています。この遺跡は、旧石器時代のものといわれ、ここからは石刃や搔器などが見つかっています。旧石器時代とは、一般に、今から200万年前から1万年前までの極めて長い時代をさしておりますが、宮地向山遺跡は、このうち、およそ1万3千年以上前の遺跡だとされています。

問2 八日市川の改修工事中に発見された()は、加賀市における弥生時代の代表的な遺跡で、「北陸の登呂遺跡」とも称されている。
①猫橋遺跡 ②動橋遺跡 ③西島遺跡 ④加茂遺跡

正解は①です。 正解率 83.3%

猫橋遺跡は、市内合河町の八日市川にかかる猫橋付近を中心とした広い地域で発見された弥生時代後期の遺跡で「北陸の登呂遺跡」とも称される北陸では有名な遺跡です。この付近は、田んぼを掘ると水が湧き出るほどの湿地帯で、約1,800年前のしゃもじ・くわ・はしごなどが、ほぼそのままの形で発見されました。また、稲づくりを示す炭化した米粒や大きな柱を使ったと考えられる倉庫跡や平地における住居跡も確認され、この時代、当地には、すでに村を統率する首長が存在していたと思われる。

問3 昭和35年、加賀市()町で、古墳時代の玉造職人集団が住んでいたとされる玉造遺跡が発見された。
①小塩辻 ②富塚 ③片山津 ④合河

正解は③です。 正解率 48.7%

市内片山津町の西側の台地では、昭和34年・35年の発掘調査により、4世紀から5世紀前半にかけての玉造職人集団が住んでいたとされる「片山津玉造遺跡」が発見されました。ここでは、33基の住居と工房を兼ねた竪穴式住居跡が発見され、首飾りなどの装飾品に使う管玉や勾玉などの玉類を製造していたと考えられています。また、ここで使用されていた原石の多くは緑色凝灰岩質の頁岩で、これらは動橋川の上流で採取したものと考えられています。

問4 平安時代後期の書『白山之記』には、柏野寺、温泉寺、極楽寺、小野坂寺、()の5つの寺院を「白山五院」と称し、白山信仰の拠点としていたことが記録されている。
①那谷寺 ②栄谷寺 ③全昌寺 ④大聖寺

正解は④です。 正解率 73.7%

平安時代に入ると仏教が大変盛んになり、古来よりの白山信仰が、仏教思想と結びつきました。当地域では、柏野寺・温泉寺・極楽寺・小野坂寺・大聖寺の5つの寺院が「白山五院」と呼ばれ、白山信仰の拠点地として建立されたことが平安時代後期の書『白山之記』に記載されています。このほか、「白山三箇寺」として那谷寺(小松市那谷町)・温谷寺(加賀市宇谷町)・栄谷寺(加賀市栄谷町)があり、この頃、当地方は白山信仰の中心地となっていたことをうかがい知ることができます。

問5 律令時代、駅馬が常備された「駅」が、北陸道が通る江沼郡内には、()と朝倉の2ヶ所に設置されていた。
①塔尾 ②橋 ③潮津 ④動橋

正解は③です。 正解率 55.1%

この時代、国家統一の機能を確保し、中央と地方の連絡が円滑にできるよう交通路が整備されました。当地では、古代官道である「北陸道」と、その中継機関として「駅」が設置されました。江沼郡域では、越前から加賀に入ると、先ず「朝倉駅」に、その次に「潮津駅」に出て、小松の安宅へと抜けていきました。それぞれの駅には駅馬（はゆま・えきば）が置かれ、大路では20匹、中路では10匹、小路では5匹の馬が常備されました。

問6 寿永2年、平家の武将()は、篠原の地で、白髪を黒く染めて参戦し、討ち取られたという伝説がある。
①斎藤実盛 ②平宗盛 ③木曾義仲 ④平維盛

正解は①です。 正解率 90.4%

寿永2年（1183）平家軍は、俱利伽羅で木曾義仲に大敗し、加賀国篠原（現在の加賀市篠原町あたり）まで逃れてきました。この地で、平家の武将、斎藤実盛は、義仲の家来、手塚太郎光盛に討ち取られました。このとき、実盛は老武者と思われることを嫌い、白髪を黒く染めて参戦したという伝説が残っています。討ち取った後、この実盛の首を洗ったと伝える池が「首洗池」（加賀市手塚町）で、その霊を鎮めるために築いたと伝えられるところが「実盛塚」（加賀市篠原新町）です。

問7 文明年間頃、蓮如の四男蓮誓は、当地()の光教寺に拠点を置いて勢力を築いた。
①作見村 ②富塚村 ③尾中村 ④山田村

正解は④です。 正解率 57.7%

文明3年（1471）7月、本願寺8世、蓮如が加賀・越前の国境、吉崎に道場を開き、その結果、当地域に爆発的に真宗門徒が増えていきました。しかし、周囲の権力者や他宗との間に軋轢が生まれ、結局、蓮如は、文明7年（1475）吉崎を後にしました。しかし、これをきっかけに、文明18年（1486）頃に、蓮如の4男、蓮誓が江沼郡山田村の「光教寺」において、能美や河北の拠点寺院とともに、「加賀3ヶ寺体制」を敷いて勢力をもちました。

問8 山中漆器は、戦国時代、大聖寺川上流の()に、越前から木地師が移住したことに始まると伝えられている。
①真砂村 ②九谷村 ③生水村 ④杉水村

正解は①です。 正解率 67.3%

山中塗りは、安土桃山時代の天正年間（1573-1592）に、越前から山伝いに、山中温泉の上流約20kmの真砂という集落に木地師の集団が移住したことが起源とされています。その後、山中塗りは山中温泉の湯治客への土産物として造られるとともに、江戸中頃からは会津・京都・金沢から塗りや蒔絵の技術を導入して木地とともに茶道具などの塗り物の産地として発展し、山中温泉は全国的でも有数の漆器の産地となりました。

問9 関ヶ原の戦いに伴い、当地方でも大聖寺城主()と、金沢城主前田利長との間で、戦いがあった。
①山口玄蕃 ②柴田勝家 ③溝口秀勝 ④丹羽長秀

正解は①です。 正解率 87.2%

関ヶ原の戦いにより、当地でも東軍と西軍で戦いが起こりました。大聖寺城主山口玄蕃は西軍に、金沢城主前田利長は、家康側の東軍についたため、同年7月、前田利長率いる2万5千人の大軍が大聖寺城に攻め込みました。この戦いで1,200人余りの山口玄蕃軍は、僅か1日で、およそ800人の家臣と共に討ち死にをしました。山口玄蕃の首塚は大聖寺新町の福田橋詰めであり、現在も、毎年、玄蕃親子が自決した日と伝えられる8月8日には、供養するための法要が開かれています。

問10 溝口秀勝は、大聖寺城主としておよそ()年間、当地方を治め、その後、新潟の新発田に移った。

- ① 3年間 ② 5年間 ③ 10年間 ④ 15年間

正解は④です。 正解率 48.7%

秀吉は前田利家に石川、河北の2郡を与え、丹羽長秀を北庄に置き、越前・若狭と江沼・能美の2郡を統治させました。これにより、江沼郡は、長秀の与力、溝口秀勝が、4万4千石の領主として大聖寺城に入り当地を治めることとなりました。秀勝が江沼郡を支配した期間は約15年ほどですが、大聖寺の城下町としての基本的な形は、この秀勝の時代につくられたものと考えられています。

問11 天保11年、大聖寺藩では、藩士たちが学問を学ぶために()と称する学問所が設けられた。

- ① 明倫館 ② 時習館 ③ 弘道館 ④ 修養館

正解は②です。 正解率 60.1%

大聖寺藩では、幕府や加賀藩の朱子学への傾倒の影響を受け、藩士子弟の文武にわたる教育に力が注がれました。天保11年(1840)第11代藩主前田利平のとき、学問所が開設され、これがのち「時習館」と称し、多くの藩士の子弟を教育する藩校になりました。また、安政4年(1857)には剣術、槍術などを学ぶ武道館として「有備館」が設けられました。

問12 江戸時代より、大聖寺では絹織物の生産が盛んであったが、これは、もともと領内()村の商人が大聖寺に広めたものと伝えられている。

- ① 庄 ② 動橋 ③ 山代 ④ 勅使

正解は①です。 正解率 80.8%

当地方は古くから絹の産地とされています。その発端は荻生村の娘が京都で西陣織を習い、帰ってから村で織物を始めたとされていますが、その後、この娘が庄村に嫁いだため、庄村で織物が盛んになりました。庄村では、沢屋仁左衛門という織物商人が活躍しましたが、この仁左衛門が江戸中頃に大聖寺に居を移し織物業を始めました。これが貧しい武士の奥方の内職として広まり、大聖寺は一躍織物の産地として全国に知られるほどになりました。

問13 松尾芭蕉は、大聖寺の全昌寺で「庭掃て出ばや寺に散る()」の一句を詠んだ。

- ① 枯葉 ② 柳 ③ 桜 ④ 紅葉

正解は②です。 正解率 43.6%

大聖寺の山ノ下寺院群の一つ、実性院からしばらく歩くと全昌寺があります。元禄2年(1689)、俳人松尾芭蕉が「奥の細道」の行脚の途中、この寺に泊りました。翌日、出立するときに詠んだ句が「庭掃いて 出でばや寺に 散る柳」です。「出発しようとする、おりから柳の葉がはらはらと散った。せめてこの寺に散る柳の葉を掃き清めて、出立したい。」という意味です。

問14 大聖寺藩2代藩主前田利明の4男()は、上野寛永寺で將軍家の法会の接待役となったが、同じ役目の織田秀親を刺殺し、切腹となった。

- ① 前田利極 ② 前田利道 ③ 前田利平 ④ 前田利昌

正解は④です。 正解率 62.2%

前田利昌は大聖寺藩2代藩主前田利明の4男で、通称、采女と呼ばれました。元禄5年に兄利直から新田1万石をあたえられ大聖寺新田の藩主となりました。上野寛永寺での先の將軍徳川綱吉の法会のおりの接待役となりましたが、同役の大和柳本藩主織田秀親を刺殺し、宝永6年2月18日切腹を命じられました。享年26歳の若さでした。

問15 大聖寺藩初代藩主祖前田利治の母()とは、2代将軍徳川秀忠の2女で加賀3代藩主前田利常に嫁いだ珠姫のことである。

- ① 芳春院 ② 寿福院 ③ 天徳院 ④ 玉泉院

正解は③です。 正解率 51.9%

初代大聖寺藩主前田利治は、加賀藩3代藩主前田利常の3男で、利治の母親は将軍徳川秀忠の娘にあたる天徳院です。天徳院は、幼名を珠姫といい、慶長六年(1601年)、3歳のとき加賀の国(金沢)へお輿入れになり14歳で結婚、その後10年間で3男5女をもうけ、利常公の妻として、また将軍秀忠公の娘として、前田、徳川両家の融和のために心を尽くしました。元和8年(1622年)の春、24歳の若さで死去しました。

問16 宝永6年、大聖寺3代藩主前田利直の御休憩所として建てられた「長流亭」の屋根は()である。

- ① 瓦葺き ② 柿葺き ③ 檜皮葺き ④ 茅葺き

正解は②です。 正解率 52.6%

江沼神社境内に建つ、国の重要有形文化財である「長流亭」の屋根は柿葺きとなっています。柿葺きは、厚さ3mm程度に薄くはいた板(=柿板(こけらいた))で葺いた屋根で材料は榎(さわら)・檜(ひのき)・栗(くり)などを使用しました。古くから寺院や貴族の住宅などでよく用いられ、京都の金閣寺や銀閣寺、桂(かつら)離宮の書院なども柿葺きです。なお、檜皮葺とは、檜の樹皮を竹くぎで留めながら屋根を葺く日本古来の工法です。

問17 江沼神社境内の梅花庵には、京都四条派の絵師()が描いた天井画「四季草花図」が残されている。

- ① 広田百豊 ② 吉田公均 ③ 佐々木泉景 ④ 山口梅園

正解は②です。 正解率 15.4%

吉田公均は、江戸後期から明治時代にかけて活躍した日本画家で越中(富山県)の出身です。京都で文人画を学び、花鳥山水を得意とし、京都御所學問所の杉戸に「花車図」を描きました。公均は、大聖寺藩士、東方芝山とも交流があり、幕末、塩屋の北前船主、西野小左衛門に招かれ、西野家の座敷の天井画を描きました。そのため、梅花庵の座敷は「公均の間」と呼ばれていました。

問18 加賀市の橋立町、塩屋町、()町の3ヶ所は、江戸時代から明治時代にかけて、北前船主や船頭を輩出した「北前船主のふるさと」として知られている。

- ① 塩浜 ② 伊切 ③ 上木 ④ 瀬越

正解は④です。 正解率 89.1%

江戸時代の中頃から明治中期頃までの間、大坂を拠点に、瀬戸内を通過して日本海を北上し、北海道までを往来した商船を北前船と呼んでいます。大聖寺藩の橋立村・塩屋村・瀬越村では、いずれも北前船が接岸できる湊をもっていませんでしたが、18世紀後半頃から多くの北前船主や船頭を輩出し、「北前船のふる里」として栄えました。このうち、瀬越村からは広海二三郎と大家七平の2大船主がでました。

問19 大聖寺藩士石川嶂は、明治初年に()に国内初の蒸気船「一番丸」を就航させた。

- ① 琵琶湖 ② 柴山潟 ③ 河北潟 ④ 三方五湖

正解は①です。 正解率 66.0%

大聖寺藩士石川嶂は、明治元年、琵琶湖に蒸気船を就航させることを藩に進言し承認を得ました。長崎で造船学を学び、蒸気機関2組を英国人から購入し大津の一場啓二らとともに明治2年日本最初の湖上汽船一番丸を就航させました。この後、金沢・大聖寺両藩の出資により兵庫製鉄所(後の川崎造船所)を設立したり、大聖寺商法会議所の会頭になるなど大聖寺藩士で

は異色の人物として知られています。

問20 明治2年に発足した「大聖寺県」は、僅か4ヶ月ほどで()に合併され、消滅した。

- ①金沢県 ②福井県 ③石川県 ④美川県

正解は①です。 正解率 67.9%

明治4年7月に、明治新政府の廃藩置県により、大聖寺県が誕生しました。しかし、この年の11月には、金沢県に合併されたので、大聖寺県が在ったのは、僅か4ヶ月のことでした。なお、その金沢県も明治5年2月には石川県と改称しましたので、これ以後、当地は「石川県江沼郡」と呼ばれることとなりました。

問21 明治10年、大聖寺松島町に「加州松島社」と称する会社がつくれ、日本で最も早い時期に、()

の工業生産が行われた。

- ①石鹸 ②マッチ ③鉛筆 ④木製リム

正解は③です。 正解率 80.8%

明治8年(1875)富士写ヶ岳山麓の片谷村で良質の黒鉛が発見され、これを利用して鉛筆製造をしようと考えたのが、旧大聖寺藩士の飛鳥井清でした。彼は、この鉛筆製造を窮乏していた旧大聖寺藩士の士族授産の一助にしようと、旧藩士、柿沢理平を工場長にして「加州松島社」という会社を大聖寺松島町に創設しました。理平はさまざまな工夫を重ねて、ついには舶来品に劣らない良質の鉛筆を大量に作り出すことに成功しました。

問22 明治4年、大聖寺藩領内でおきた農民一揆は()一揆と呼ばれている。

- ①みの虫 ②稲わら ③だいこん ④陣笠

正解は①です。 正解率 85.9%

明治4年11月、大聖寺藩領内で農民およそ千人が参加する一揆が起こりました。この一揆は、胴ミノを着た農民の姿が蓑虫に似ていたので「みの虫一揆」と呼ばれています。この事件は、大聖寺藩が赤字財政を補填するためにとった増税策に対する不満が爆発したもので、首謀者であった上分校村の新家理与門は、翌年6月、金沢の刑務所で獄死しました。現在も分校町には、明治28年に江沼郡の町村長が発起人となって建てられた理与門の石碑があります。

問23 明治11年、橋立や瀬越の北前船主らの出資により、大聖寺に()銀行が設立された。

- ①十四 ②六十四 ③七十七 ④八十四

正解は④です。 正解率 85.9%

明治11年(1878)11月、大聖寺に第八十四国立銀行が設立されました。当時は、金禄公債を資本金として国立銀行が全国に150行余りが設立され、八十四銀行はその一つでした。その後、八十四銀行は本店を東京の京橋に移し、大聖寺をただ一つの支店として経営を続けました。明治30年5月には、酒問屋を経営していた東京の中沢彦吉が譲り受け、八十四銀行は民営となりました。

問24 チェーンやホイールの生産では日本のトップクラスである「大同工業株式会社」は、昭和8年に設立された()株式会社を前身とする。

- ①山中チェーン ②大聖寺チェーン ③国益チェーン ④富国チェーン

正解は③です。 正解率 41.0%

昭和8年当時、自転車の国産化が進む中において、チェーンの国産化は遅れている状況がありました。そこで、既にリムで成功を収めていた2代目新家熊吉(三代次)は高性能チェーンの製造を決意し、同年5月25日、「国益チェーン(株)」を設立しました。その後、チェーン市場の安定を目的に朝日チエン(株)、加賀チエン(株)の2社を合併して、昭和10年5月「大同チ

エン(株)が発足し、今日の「大同工業(株)」の前身となりました。

問25 加賀市の無形文化財である塩屋町の「シャシャムシャ踊り」は別名 ()と呼ばれている。

- ① 念仏踊り ② 浜踊り ③ 蓮如踊り ④ お浄土踊り

正解は③です。 正解率 58.9%

加賀市塩屋町を中心に、周辺の吉崎町・永井町に伝わる盆踊りで、別名「蓮如踊り」とも呼ばれています。「シャシャムシャ」とは、昔、蓮如が始めて吉崎を訪れた際、道もない笹山を、両手でかき分けて登ったと伝えられ、すなわち「シャシャ」(笹)が「ムシャムシャに」(勢い良く)生い茂っていた様子から、この名前がついたとされています。笛や太鼓の囃子がまったくなく、素朴で哀愁漂う踊りとなっています。

問26 大聖寺敷地の菅生石部神社では、毎年、天神講の中で、氏子の少年たちによる稚児舞()が行われ、現在、この舞は加賀市の無形民俗文化財に指定されている。

- ① 風の舞 ② 笛の舞 ③ 蝶の舞 ④ 火の舞

正解は③です。 正解率 47.4%

加賀二の宮の菅生石部神社では、毎年7月24日から3日間、天神講がおこなわれます。この祭事は1400年続く古い歴史を有し、江戸時代には大聖寺藩の藩祭として、藩主をはじめ藩内多くの住民がお参りしたとされています。舞殿では3日間にわたり氏子の少年による稚児舞、「蝶の舞」が奉納されます。なお、この舞は「扇の舞」・「鈴の舞」・「蝶の舞」の3部に分かれています。総称で「蝶の舞」と呼ばれています。

問27 「おとなびた」「ませている」という言葉は、加賀市の方言では()と言った。

- ① りくつな ② ひねくらしい ③ いじくらしい ④ こんじょよし

正解は②です。 正解率 78.2%

加賀市の方言で、歳よりも老けてみえる人やおとなびた子どものことを「ひねくらしい」あるいは「ひねた」などと言いました。この言葉は、当地だけでなく、富山県から石川県にかけてかなり広く使われてきました。現在も使っているお年寄りもおられます。これに対して、歳より若く見える人や子どもっぽい人のことを「わらびし」と言いました。

問28 他人をからかうことを、加賀市の方言では()と言った。

- ① がさる ② いんにかかる ③ いじかる ④ どずねる

正解は②です。 正解率 53.2%

相手をからかったり、ちょっかいをだすことを、加賀市では「いんにかかる」と言いましたが、この言葉は、加賀市でも、山中地区や片山津地区でよく使われましたが、あまり使わない地域もあったようです。ちなみに「からかう」は全国的には「ちよす」「てがう」「せせくる」「けさう」などさまざまな方言が残っています。

問29 大聖寺出身の医師()は、嘉永元年に大坂の緒方洪庵が主宰する適々斎塾に入門し、同6年に塾頭となった。

- ① 稲坂謙吉 ② 黒川良庵 ③ 渡辺卯三郎 ④ 竹内玄同

正解は③です。 正解率 30.1%

大聖寺越前町出身の医師渡辺卯三郎は儒学を東方芝山に、蘭学の基礎を金沢の蘭医黒川良安から学びました。嘉永元年大坂の緒方洪庵の適々斎塾に入門し、同6年第7代塾頭になりました。適塾の塾頭には福沢諭吉や大村益次郎、長与専斎など、

歴史上、著名な人が多く、卯三郎もそれだけ優秀であったと思われます。残念なことに父親の看病のために大聖寺に帰り、結局、肺病のため51歳の若さで死去しました。

問30 現在の加賀市加茂町出身の車夫、北ヶ市市太郎は明治24年4月、大津事件の時に()国の皇太子の危機を救った。
①ドイツ ②ギリシャ ③ロシア ④イギリス

正解は③です。 正解率 83.9%

大津事件とは、1891（明治24）年5月に日本を訪問中のロシア帝国の皇太子ニコライ（のちに帝政ロシア最後の皇帝となったニコライ2世）が、現在の滋賀県大津市で、警備にあっていた巡査・津田三蔵に突然斬りかかれ負傷した暗殺未遂事件のことをいいます。この時、津田を組み伏せ、ニコライの命を救った一人が、人力車の車引きをしていた北ヶ市市太郎でした。

問31 橋立村出身の北前船主()は、明治中頃、拠点を函館に移し、北洋漁業に転身を図った。
①久保彦兵衛 ②西出孫左衛門 ③広海二三郎 ④大家七平

正解は②です。 正解率 48.7%

加賀橋立村の北前船主、西出孫左衛門（11代）は、江戸時代からの家業である北前船の経営をおこなってきましたが、明治22年、拠点を函館に移し、北洋漁業に転身し、カムチャッカに漁場を開くなどして活躍し、北海道経済界の重鎮となりました。また、八十四銀行を大聖寺に創設する際にも出資するなど、ふるさと江沼郡の発展にも寄与しました。

問32 大聖寺出身の海軍大將瓜生外吉の妻は、明治4年、岩倉遣欧使節団でアメリカに渡った女子留学生の一人で、わが国に音楽教育を広めた()である。
①山川捨松 ②津田梅子 ③永井繁子 ④上田悌子

正解は③です。 正解率 44.2%

日露戦争の仁川沖海戦などで活躍した海軍大將瓜生外吉は大聖寺の出身ですが、外吉の妻が、岩倉遣欧使節としてアメリカに渡った津田梅子や大岩捨松など5人の女子留学生の一人永井繁子であることは意外と知られていません。永井繁子は、益田家の4女として江戸で生まれましたが、幕府軍医の永井久太郎の養女となりました。繁子の実兄は、三井物産創始者で茶人の益田孝（鈍翁）です。アメリカから帰国した後は女子師範学校などでピアノや英語を教え、わが国における音楽教育の普及に尽力しました。

問33 加賀市桑原町出身の()は、人間の色覚に関する研究で重要な法則を発見しノーベル賞候補にもなった。
①本川弘一 ②高峰讓吉 ③柳場重男 ④馬嶋健吉

正解は①です。 正解率 39.1%

生理学者、本川弘一は江沼郡桑原村（現加賀市桑原町）出身。夜間学校で学ぶなど苦学の末、東京帝国大学の医学部に入りました。その後、電気生理学を専攻し、昭和15年東北帝大教授となりました。脳波、色覚などの研究でノーベル賞候補にもなるなど、世界的に注目されました。同29年には学士院賞、朝日文化賞などを受賞し、40年には東北大学長を務めました。

問34 大聖寺穴虫（現在の錦町付近）出身の()は日本放送協会(NHK)の初代会長となった。
①岩原謙三 ②飛鳥井清 ③梅田五月 ④竹田儀一

正解は①です。 正解率 62.8%

実業家、岩原謙三は大聖寺^{あなもち}出身。東京商船学校を経て三井物産会社に入社。ニューヨーク支店長や本店理事等を歴任しました。明治43年芝浦製作所取締役となり、大正9年2代社長に就任（昭和5年辞任）。大正13年(社)東京放送局が発足し、総裁に後藤新平、理事長に岩原謙三が選ばれました。その後、大正15年に新たに「日本放送協会」が設立され、初代会長に岩原謙三が就任し、わが国の放送事業の基礎を築きました。墓所は下屋敷町の蓮光寺にあります。

問35 錦城小学校前庭には、大聖寺耳聞山町出身で寄生虫学の先駆者として知られる()博士の胸像が建っている。

- ① 稲坂謙吉 ② 桂田富士郎 ③ 大幸勇吉 ④ 宮永盛雄

正解は②です。 正解率 46.2%

病理学者、桂田富士郎は大聖寺耳聞山町出身。明治37年に猫の解剖により日本住血吸虫を発見しました。大正7年にその業績により帝国学士院賞を受けました。その後、大聖寺に帰り、耳聞山町の生家で診療所を開きました。母校錦城小学校で「桂田奨学資金」が設けられ、また、学校敷地内に博士の胸像が設置されました。墓所は全昌寺にあります。

問36 大聖寺耳聞山町出身の()は、日本の口語短歌の先駆者として知られる。

- ① 西出朝風 ② 梅田五月 ③ 竹久夢二 ④ 広田百豊

正解は①です。 正解率 62.2%

大聖寺出身の歌人西出朝風は日本における口語短歌の創始者です。朝風の父、孫一は橋立の北前船主西出家の一族。金沢一中から慶心義塾に学び、文学に興味をもち、明治34年始めて口語短歌を作りました。竹久夢二の影響を受け感傷的な作品が数多く残されています。ゆかりの地、加賀市橋立町には、朝風の歌碑「広重の藍よりすこし濃い色の 故郷の海に逢うたけれども」が建てられています。

問37 加賀市出身の作家、深田久弥は、昭和46年に()を登山中に、脳卒中で急死した。

- ① 茅ヶ岳 ② 槍ヶ岳 ③ ハヶ岳 ④ 白馬岳

正解は①です。 正解率 68.6%

大聖寺出身の山の文学者、深田久弥は、「オロッコの娘」や「津軽の野づら」で作家として認められました。昭和40年「日本百名山」で第16回読売文学賞受賞し、一躍山の文学者として知られるようになりました。昭和46年3月山梨県の茅ヶ岳を登山中、脳卒中により急逝しました。昭和56年4月、深田久弥を偲び、山梨県韮崎市観光協会や地元山岳会により、茅ヶ岳登山口に「深田記念公園」がつけられました。

問38 大正時代、山中温泉鶴仙溪を訪れた()は、こおろぎ橋から川に飛び込んだという逸話が残っている。

- ① 北大路魯山人 ② 竹久夢二 ③ 田山花袋 ④ 泉鏡花

正解は②です。 正解率 30.8%

山中温泉には、大正から昭和初期にかけて、大正ロマンを代表する抒情派の画家にして詩人の竹久夢二が訪れています。このとき、夢二は見物客の視線を集めるなか、こおろぎ橋から川へ飛び込んだというエピソードが残っています。こおろぎ橋は鶴仙溪の入口に架かる総ひのき造りの橋で、山中温泉のシンボルとなっています。

問39 中谷宇吉郎の著書「黒い月の世界」は、宇吉郎が()の山の山頂でおこなった雪の観測のことを書いた随筆集である。

- ① フィリピン ② ハワイ ③ アラスカ ④ カナダ

正解は②です。 正解率 5.8%

宇吉郎の随筆『黒い月の世界』は、ハワイ島の4千メートルを越える高山マウナ・ロアの山頂でおこなった雪の観測のことを書いた本です。雪の結晶の研究のため、マウナ・ロアに登った宇吉郎が、ごつごつと続く黒い溶岩台地を見て「黒い月の世界のようだ」ということでこのタイトルにしたとされています。ちなみに、同じ本の中に「白い月の世界」という1編もあり、こちらはグリーンランドのことを書いたものです。

問40 加賀地方には、コンニャクを白ゴマ、白味噌で味付けした()と称するタレをつけて食べる精進料理の一種が伝えられている。
①エビス ②キシズ ③オカラ ④ダダミ

正解は②です。 正解率 82.1%

「キシズ」は、刺身代わりに出される料理であるコンニャクやくすきりを白味噌・白ゴマで味付けしたタレをつけて食べる加賀地方の精進料理。「エビス」は、砂糖・醤油・塩などで調味した寒天に卵を流して固めたもので、祭りや正月などの祝い行事によく作られました。「ジブニ(じぶ煮)」は、鳥肉(鴨肉や鶏肉)と野菜・すだれ麩などを炊き合わせた煮物で、加賀料理の代表となっています。「ダダミ」は、タラの白子(オスの精巣)のことで、生で酢の物にするほか、吸い物や鍋など汁物に入れました。

問41 山代温泉薬王院にある五輪塔は、平安中期、悉曇学(梵語)を究め、わが国50音字の配列に大きな影響を与えた僧()の供養塔だとされている。
①空海 ②最澄 ③延昌 ④明覚

正解は④です。 正解率 75.6%

平安時代後期の僧、音韻学者。天台宗の延暦寺で学び、のち加賀山代温泉の温泉寺に隠棲して「加州隠者」と称しました。悉曇学や梵字の発音などを研究し、我が国の50音字の配列に大きな影響を与えました。薬王院の五輪塔は明治31年の調査で鎌倉時代のものとされ、明覚の供養塔と判断されました。

問42 片野鴨池は平成5年に、国際的に重要な湿地として()条約の登録湿地に認定された。
①ラムサール ②パリ ③ワシントン ④ジュネーブ

正解は①です。 正解率 94.9%

加賀市の西北、片野海岸近くの丘陵地に囲まれた盆地にある1.5haの池は、全国でも有数の渡り鳥の飛来地として知られています。毎年、10月頃ともなるとシベリア方面から越冬のためにガンやカモ類が飛来してきます。最盛期には数千羽から1万羽を越える鳥類の休息の場となっています。平成5年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約の登録湿地となりました。

問43 「魯山人寓居跡いろは草庵」は、もと山代温泉の旅館()の離れを利用した施設である。
①白銀屋 ②吉野屋 ③山下屋 ④吉田屋

正解は②です。 正解率 46.2%

大正4年10月、北大路魯山人(当時は福田大観)は金沢の文人細野燕台の紹介で山代温泉を訪れました。山代温泉の老舗旅館「吉野家」の別荘を仕事場として、ここに約半年間滞在しました。この間、魯山人は刻字看板を彫ったり、九谷焼の技術を学んだりしました。この別荘は現在、「魯山人寓居跡いろは草庵」として一般公開されています。

問44 大聖寺番場町にある「深田久弥山の文化館」は、もと()の建物を利用した文化施設である。

- ① 織物会社 ② 酒醸造会社 ③ 機械製造会社 ④ 漢方薬

正解は①です。 正解率 84.6%

建物は明治43年に絹織物工場として建てられた旧「山長株式会社」の事務所棟や石蔵などを改築したもので、数多くの山や自然に関する本が集められている図書室、季節ごとの山岳写真が並ぶ廊下ギャラリー、「日本百名山」の自筆原稿や久弥の遺品などが並ぶ石蔵展示室などがあります。樹齢650年のイチョウや750年のスタジイなど、館をとりまく巨木も見所のひとつとなっています。

問45 加賀市の面積は、およそ()平方キロメートルである。

- ① 187 ② 306 ③ 514 ④ 667

正解は②です。 正解率 45.5%

加賀市の面積は306㎢です。この面積は、石川県内の19自治体では、白山市の755㎢、金沢市の467㎢、輪島市の426㎢、小松市の371㎢、七尾市の318㎢に次いで6番目の大きさです。また、人口順では金沢、白山、小松について4番目、人口密度での順位では10番目となっています。

問46 大聖寺川の河口と北潟湖に囲まれた小島は、「鹿島の森」と呼ばれており、江戸時代には()と称する法華宗の道場があった。

- ① 萬宝院 ② 幸福院 ③ 吉祥院 ④ 宗寿院

正解は①です。 正解率 31.4%

国指定天然記念物「鹿島の森」は、大聖寺川の河口、塩屋町に位置する陸続きの小島です。標高およそ30メートル、外周は600メートル程度で面積は約3ha。古くは天台宗の霊場が、また江戸時代には「萬宝院」と称する法華宗の道場があったため、数百年来、斧を入れることがありませんでした。そのため、タブ、スタジイ、ヤブニッケイなどの常緑広葉林が生い茂り、原生林に近い状態を残しています。

問47 加賀市の片野海岸から尼御前岬にかけての海岸沿いには、()の群生がみられる。

- ① ノハナショウブ ② クロユリ ③ ハイマツ ④ カタクリ

正解は①です。 正解率 46.2%

ノハナショウブ(野花菖蒲)は湿った草原によく見られる多年生の草本です。加賀市では、海岸のクロマツ林下に群生する珍しい光景が見られます。加賀市の片野海岸から加佐岬にかけての約3.5kmの海食崖は、基盤である凝灰岩あるいは砂岩の上に砂層が堆積した地層からなっており、この基盤と堆積砂層の間を地下水が流れているため、通常、湿気の多い草原に見られるノハナショウブが群生したと考えられています。

問48 加賀市の()町では、ハウスによるトマト栽培が行われている。

- ① 新保 ② 中島 ③ 小菅波 ④ 柴山

正解は④です。 正解率 69.2%

加賀市柴山町は明治・大正期より、ダイコンやスイカ、サツマイモなどを中心とした野菜を栽培していましたが、近年では

ハウスによるトマト栽培が行なわれています。特に、ここで栽培したトマトの品種「桃太郎」は甘味、旨みが強く、近年では首都圏や関西方面にも出荷されている人気野菜となっています。

問49 加賀市()では、江戸時代から、米と麦芽の甘みを活かした飴づくりが行なわれてきた。
①黒瀬町 ②作見町 ③吸坂町 ④天日町

正解は③です。 正解率 66.0%

加賀市では、江戸時代の初期より、およそ360年余りの間、飴づくりが行なわれてきました。吸坂村には、昔、朝鮮から焼き物の技術をもった工人がきて、「吸坂焼」をつくっていました。その人たちが始めたのが「吸坂飴」だという言い伝えがあります。明治期には、28軒のほとんどの家で飴づくりをしていましたが、終戦の頃には7軒に、現在は1軒のみとなっています。

問50 近年、片山津温泉では柴山瀉の泥と源泉をつかって()と称する泥染めがおこなわれている。
①愛子染め ②宇吉郎染め ③晶子染め ④芭蕉染め

正解は③です。 正解率 48.7%

柴山瀉の湖底土と源泉を使って染める泥染めのことを「晶子染め」と呼んでいます。歌人と謝野晶子は片山津温泉を訪れた際、「風起り うす紫の波うごく 春の初めの片山津かな」という歌を残しています。そこで、この絞り染めは「晶子染め」と名付けられました。片山津温泉の芸妓候番「花館」でおこなわれている体験では、気品あるうす紫色のハンカチ・スカーフなどを手軽に作ることができます。

【第1回初級試験 専門テーマ“九谷焼”に関する問題】

問51 九谷焼の創業は今からおよそ()年前のことである。
①120 ②220 ③360 ④520

正解は③です。 正解率 75.0%

大聖寺藩初代藩主前田利治が家臣・後藤才次郎に命じて肥前有田で製陶の技術を修行させ、山中の九谷村で焼き物を始めたのが「九谷焼」の始まりと言われていますが、この事業を始めたのが、一般的には明暦元年頃(1655年頃)と考えられていますので、今からおよそ「360年ほど以前のこと」になります。

問52 大聖寺藩初代藩主前田利治は、山師(鉦山技師)の責任者()に命じ九谷焼を開窯させたという言い伝えが残されている。
①土田清左衛門 ②吉田屋伝右衛門 ③後藤才次郎 ④田村権左右衛門

正解は③です。 正解率 73.1%

伝承によれば、大聖寺藩初代藩主の前田利治は、領内の九谷村で鉦山を開発中に陶石が発見されたのを契機に、鉦山開発に従事し錬金の役を務めていた後藤才次郎を肥前有田に派遣して陶業技術を学ばせたと言われています。後藤は帰藩後、九谷の地に窯を築き、田村権左右衛門を指導して、明暦元年(1655)頃に色絵磁器生産を始めました。これが九谷焼生産の始まりとされています。

問53 文政年間に、吉田屋伝右衛門が、^{はいぜつ}廃絶していた九谷焼を再興したのは、彼が()歳のときのことである。
① 38 ② 48 ③ 62 ④ 72

正解は④です。 正解率 33.9%

大聖寺の豪商「吉田屋」の4代目、豊田伝右衛門（号は石翁）は、文政6年（1823）頃に、それまで廃絶していた古九谷を再興しようと江沼郡九谷村に窯をひらき「吉田屋窯」を築きました。伝右衛門は、宝暦2年（1752）生まれですので、彼がこの事業を始めたのは72歳という高齢の時になります。

問54 九谷焼の原料は、おもに()である。
① 粘土 ② 陶石 ③ 鉄鉱石 ④ 珪藻土

正解は②です。 正解率 70.5%

焼き物は、粘土で作ったものを「陶器」、花崗岩などの風化した石を原料で作ったものを「磁器」といいます。陶器は箸で叩いてもにぶい音がするだけですが、九谷焼などの磁器を同じように箸で叩くと「チンチン」と高い音がします。これは、陶石にはガラス質を多く含んだ成分があり、焼成により素地が溶けてガラス状になったからなのです。

問55 陶磁器の上絵付けの際に使用する窯を()と呼ぶ。
① あな窯 ② にしき窯 ③ すやき窯 ④ のぼり窯

正解は②です。 正解率 33.9%

素焼きが終わった素地に、染め付けの呉須を使って描く下絵付けを施し、釉薬をかけて1300度前後の高温で一昼夜近くかけて焼き上げることを「本窯」と呼びますが、このあと「五彩絵の具」を用い九谷焼の命とも言える上絵付けが施され、再び800度ほどの温度で焼成します。このときの窯を「錦窯（にしきがま）」と呼んでいます。

問56 九谷焼は、素焼きしたあと、およそ()度の温度で本焼きする。
① 400 ② 800 ③ 1000 ④ 1300

正解は④です。 正解率 57.1%

焼き物を作るときの大まかな流れは「粘土を成型する→乾燥させる→素焼きをする→（下絵を描く）→釉薬をかける→本焼きをする」という具合です。九谷焼などのように上絵を用いる場合は、本焼きの後に上絵を描いてもう一度焼成します。

素焼は、700℃～800℃程度で焼くのが一般的です。温度が高すぎると、吸水性が悪くなり、施釉が上手く行きません。一方、本焼きは陶器で1200℃、磁器では約1300℃が一般的です。

問57 九谷焼の「五彩」とは、赤・黄・緑・紺青と()の5色をいう。
① 桃色 ② 白色 ③ 紫色 ④ 金色

正解は③です。 正解率 81.4%

古九谷は、力強い呉須の線描の上に、紫・緑・黄・紺青・赤の五彩を用いて、絵の具を厚く盛り上げて描くことが特徴です。作品は花鳥、山水、風物を題材に豪放な味わいを醸し出していますが、一定の画風というものには存在せず、極めて変化に富んでいます。また、赤色を全く使わず、紫・黄・緑・紺青のうちから2色または3色で、「塗埋手」の手法で描く「青手」と称する古九谷は、大胆なデザインのものが多く、見る人に強烈な印象を与えます。

問58 大聖寺出身の陶芸家()は、明治時代、陶芸職人を養成する私学校「維新舎」を設立したり、九谷陶器会社の総支配人として活躍した。
① 飯田屋八郎衛門 ② 浅井一毫 ③ 竹内吟秋 ④ 滝口加全

正解は③です。 正解率 55.1%

陶芸家、竹内吟秋は、大聖寺藩士浅井家の長男であったが、竹内家の養子となった。飯田屋八郎右衛門や塚谷竹軒などから絵や焼き物の技術を学び、のち私学校「維新舎」を設立し陶画工を養成。明治12年には九谷陶器会社を設立し総支配人となりました。吟秋は赤絵と古九谷風の色絵が巧みでした。墓所は松縁寺で、同じ大聖寺の陶芸家、浅井一蒙は実の弟です。

問59 石川県九谷焼美術館の常設展示室は、青手の間、色絵五彩の間、()の間の、雰囲気の間、異なる3室に分かれている。

- ①古九谷 ②赤絵金襴 ③染付 ④吉田屋

正解は②です。 正解率 73.7%

大聖寺地方町の「石川県九谷焼美術館」は、江戸時代初期の彩色磁器「古九谷」をはじめとして、およそ350年にわたる九谷焼の名品を展示する美術館です。「青手の間」「色絵・五彩の間」「赤絵・金襴の間」と九谷焼を様式別に分け、各展示室を回廊式に配置し、雰囲気の異なる空間で鑑賞できます。デジタルライブラリーでは収蔵品をはじめ、全国の美術館で所蔵する古九谷の名品など約200点を見るコーナーも充実しています。

問60 大正4年の秋から、およそ半年間、北大路魯山人は、山代温泉に滞在し、陶芸家()のもとで九谷焼を学んだ。 ①北出塔次郎 ②滝口加全 ③竹内吟秋 ④須田菁華

正解は④です。 正解率 84.6%

書や絵画、料理などで才能を発揮した北大路魯山人は、焼き物の技術を高めるために、大正4年(1915)、山代温泉の陶芸家、須田菁華のもとを訪れました。ここで魯山人は、はじめて九谷焼の絵付けを習い、作陶に目覚めたと言われています。その後、魯山人は講演会で「私は須田菁華に教えられた」と話しました。